



① 武蔵生家跡

武蔵は天正十二年（一五八四年）に生まれ、父を平田無二（無二齋）、祖父を平田将監といひ、兩人とも十手術の達人であった。こうして武蔵の家に生まれ育つた武蔵は幼少の頃から武術にたけており、十三歳の時、播州平福で新当流有馬喜兵衛に勝ち、それ以降諸国を巡つて剣の道一筋に練磨し、二十九歳で豊前国小倉船島（厳流島）での佐々木小次郎との決闘など、六十余度の勝負を一度も負けていない。武蔵は流儀を二天一流と称し、その兵法を五輪書、兵法鏡に残した。また、書・絵・彫刻・工芸を好み、禅の修業を重ね「枯木にもずい」と等、今日重要美術品とされている数々の作品を残して、正保二年五月（一六四五）、熊本千葉城にて六十二歳で亡くなり、前里に葬られた。昭和三十四年には、宅跡が「岡山県史跡」に指定された。

宮本武蔵 生誕の地

剣聖宮本武蔵は天正十二年（一五八四）宮本村（現美作市宮本）に生まれた。文武両道の達人で郷士の誇りとして古くから語り伝えられてきた。特に明治後期以降、郷土史家や剣道家等によって顕彰が進められた。

昭和十二年（一九三七）六月二十七日、朝日新聞連載小説「宮本武蔵」を執筆中の作家吉川英治が来村し、讚甘小学校で記念講演を行った。不朽の名作「宮本武蔵」によって、一躍日本の、いや世界の宮本武蔵となった。

② 宮本武蔵生誕地碑

讚甘神社から宮本川を隔てた南側に立っている。碑を中心にして約三〇坪（九〇平方尺）の周囲を玉垣で囲んでいる。この碑は、明治四十二年（一九一〇）に町内外の有志の人たちが宮本武蔵の遺跡があつた外にもなく消えてなくなることをおそれ、碑を立てて後世に伝えたいと思ひ立つた。碑石は江ノ原にあつた自然石を使い、下台石・中台石の上に、八尺の棹石を立て、総高は二丈（六尺）あつた。

二・四尺の棹石を江ノ原から曳き出すのに、小学校の児童も威勢よく参加した。総工費は寄付金五五百余円、大正元年（一九一〇）十月除幕式を挙げた。碑の正面には、旧熊本藩主細川護国侯侯爵に「宮本武蔵生誕地」と刻まれ、裏面には、現倉敷市出身の東宮侍講三島毅博士の撰文を刻んでいる。

④ 讚甘神社

宮本川に架かる宮橋のたもとにある。真向かいには「武蔵の里五輪坊」の入り口である。讚甘神社は、むかしより讚甘郷中の総鎮守で「荒牧大明神」と呼ばれていた。武蔵幼年の時、荒牧の神社に遊んで、太鼓を打つ有様を見て、二本の撥を以て左右の音の等しさを感悟し、十手を以て二刀に替へた。宮本武蔵ゆかりの神社でもある。

⑥ 平尾家

慶長五年（一六〇〇）、武蔵が武者修行に立ち上るとき、家の道具、系図、十手（三つ）、すやりを姉おきん夫婦に渡した。その後おきんの二男九郎兵衛景貞がここに居住し、武蔵の家を相続した。庭の池はその時に作られた。辺りには樹齢四百年のタラヨウと樹齢三百年のウツギの古木と屋敷の入口の樹齢三百年の栗の巨木とがある。

⑦ 鎌坂峠

山陰と山陽を結ぶ因幡街道の要衝、鎌坂峠は古い書籍には釜坂、鴨坂、加茂坂とも出てい。隠岐脱出の後醍醐帝がこの峠を越えて京都へ向かったと伝えられ、また、鳥取藩池田侯の参勤交代のコースでもあつた。入つて一入通らない坂道にしては道幅が広く、江戸時代から整備されたのがうかがえる。竹林を抜け頂上につくと、二軒の峠茶屋跡の広場がある。この峠の眺望は武蔵が晩年好んだ熊本の大蔵洞からの眺望とよく似ており、大蔵洞は武蔵が故郷を偲ぶ縁（よすが）としたと伝えられている。

⑨ 一貫清水

武蔵神社から鎌坂を八〇〇〇程登ったところに、年中絶えることのない清水が湧き出ている。この道を通る旅人が喉を潤し、冷たくて美味しく一貫（一〇〇〇文）の値打ちがあることからこの名が付いたという。また、頂上にはお茶屋があり、ここを通る旅人が一貫清水で沸かしたお茶の美味しさをほめたといひ、参勤交代の一行の休み場所でもあつたと伝えられる。

⑩ 鎌坂峠つつじ園

平成十九年五月五日子供の日、武蔵の里に新名所「鎌坂峠つつじ園」が誕生しました。地域のシルバポランティア一六六名の参加する汗で、平尾家の棚田約七十町を造園しました。大原小学校・中学校の生徒達一六〇名が二百本の各種苗木を記念植樹しました。四月中旬から五月中旬までが見頃です。

⑪ 武蔵の墓

武蔵神社の裏に五輪塔が四基、一石五輪が一基ある。墓地の奥に、武蔵の祖父にあたる平田将監の墓がある。その右手に、無二齋夫婦の墓が立っており、自然石の正面に「真源院一如道仁居士 光徳院覚月樹心大姉 武蔵父母也」と刻まれている。その左側の高さ二六五寸・周囲二〇〇寸の石碑に「賢正院玄信二天居士 宮本政名武蔵之碑」と刻まれ、熊本の弓削の里より分骨したものと伝えられている。

⑫ 森岩彦兵衛の墓

武蔵神社から鎌坂を四〇〇〇程登った、右側の松林の奥にある。宮本武蔵が武者修行に出たのは慶長五年（一六〇〇）関ヶ原合戦のあった年である。十七歳の武蔵旅立ちの時、友人の森岩彦兵衛は鎌坂峠の頂上まで見送ったという。その時、武蔵が杖にしていた批把の木刀を形見に与えて別れて行ったと伝えられている。

⑬ 本位田外記助の墓

武蔵神社から五〇〇〇程登ると、右手に「本位田外記助の墓」と伝えられる石が立っている。碑銘も何も自然石である。銘が彫られていないのは、二十七歳の外記が上意討ちにあつたことを憚つたものと伝えられている。

⑧ 武蔵神社

武蔵生誕地碑前から因幡街道を二〇〇〇程上がった右側、宇天王山にある。郷土の生んだ剣聖「宮本武蔵」を祀る神社として、昭和四十六年（一九七二）四月、武蔵奉賛会の趣意に賛同した全国千三百余名の人たちからの浄財五三〇万円をもつて建立した。拝殿の正面上部の「武蔵神社」の額は、彫書芸術の創始者である彫無季謹作書のものである。また、社頭には、武蔵が好んだ唐の詩人白居易の詩の一節「寒流帯月澄如鏡」を刻んだ「戦気の碑」が建てられている。

⑤ 青年期宮本武蔵像

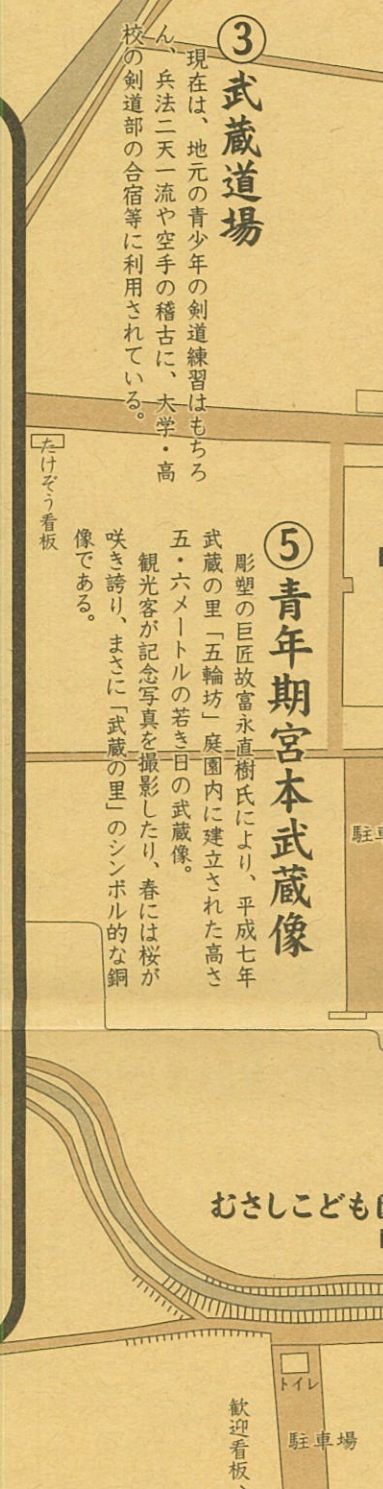
彫塑の巨匠故宮永直樹氏により、平成七年武蔵の里「五輪坊」庭園内に建立された高さ五・六メートルの若き日の武蔵像。観光客が記念写真を撮影したり、春には桜が咲き誇り、まさに「武蔵の里」のシンボリックな銅像である。

③ 武蔵道場

現在は、地元の青少年の剣道練習はもちろんだが、兵法二天一流や空手の稽古に、大学・高校の剣道部の合宿等に利用されている。

② 宮本武蔵頭彰武蔵武道館

武蔵終焉の地、九州熊本に向かつて建てられています。



武蔵の里めぐり

お問い合わせ先
■ 武蔵の里大原観光協会
岡山県美作市古町1709
美作市大原総合支所内
電話(0868)78-3111